

### 令和6年度 学校自己評価システムシート(県立杉戸高等学校)

目指す学校像	一人ひとりの能力を確実に伸ばし、夢の実現を支援する学校
--------	-----------------------------

重点目標	1 進取の気概を持ち、社会に貢献できる人材を育成する 2 総合的な知の習得を行う 3 地域との交流を深めた教育活動を行う
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	事務局(教職員)	9名
	生徒	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(令和6年1月11日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	令和3年度に入試の倍率が定員割れを起こして以来、広報活動に力を入れている。その結果、令和6年度入試は1.2倍となり、入学時の学力は上がっている。一方で杉戸高校は生徒をどこまで引き上げていくかという学校全体としての意識が共有され切っていないと言えない。教員個人の頑張りだけでなく組織としての取組を強化していくことが不可欠である。	①教員の目線合わせ  ②教員研修の機会の充実	①進路指導部を中心に、進学校として、どういう偏差値の大学を意識して授業展開していくかを統一する。 ①教科を中心に杉戸高校ではどういった力を伸ばしていくかを議論し、3年間を見通して、各時期につけさせる力を可視化する。 ②教員相互に授業見学する機会を設け、授業改善を行う。 ②予備校の主催する教員研修や、教育センターの開催する希望研修を活用して、教員個人の能力の伸長を図る。	①進路指導部で各教科、各学年におろす統一した見解を打ち出すことができたか。 ①各教科で、学年ごとにどういった力をつけさせるかがわかる指導計画が作成できたか。 ②教員相互に授業見学をして自己研鑽を積むことができたか。 ②教員一人一人が個別に研修する機会が増えたか。	①進路指導部として各教科、各学年におろすことはできなかったが、職員研修会として各教科で話し合う機会を持った。 ①各教科ごとにシラバスと達成目標を組み合わせた方針を作成した。 ②先生方に声がけをし、5回ほど機会を設けることはできたが研修の充実にはほど遠い。 ②希望研修は把握できているだけで3件であった。	B  進路指導部を中心とした組織的な動きについては、対教員、対生徒ともに必要である。ただ、進路指導部だけに責任を押し付けるのではなく、教科や学年から進路指導部に向けて、学校としてこんなふうに行っている、学校としてこんなふうに行っている、といったいいのではないかと、いいことをボトムアップで提案してもらえ、環境を、次年度に向けて作っていききたい。 また、授業改善についても、教員研修のための補助額を上限一人一万円から全額負担にするなど、先生方が利用しやすくなることや、組織的に、また、体系的に授業見学がしやすくなる試みを、分掌として構築していきたい。
2	新型コロナウイルスの猛威がなりを潜め日常が戻ってきた今、これまで規制をかけていた、対面での活動や学校行事を元に戻していく必要がある。人とのかわりを重視し、体験する機会や異なる立場からの人から学ぶ機会を充実させることで、座学だけでなく生きていく上で必要となる総合的な知の習得を図っていく。	①学びの意識化と心の教育の充実  ②学校行事の充実	①入学当初の「スタートアップ・プログラム」により、1年生全員に新しい学びについて意識化をさせる。 ①多様な価値観を認め、健全な心を育む、在り方生き方教育を推進する。 ②文化祭の制限を緩和し、より生徒の希望に沿った形で実施することにより、生徒の主体性を育む。 ②外部講師を使って進路について考える機会を作り、生徒の学習に対するモチベーションを向上させる。	①「スタートアップ・プログラム」実施直後の、生徒アンケートによる満足度は高かったか。 ①在り方生き方教育は、本校の生徒の実情に応じたカリキュラムと教材のもと、計画的に実施されたか。 ②生徒が文化祭に対するアンケートで満足度が上がったか、またその理由として、主体的に活動できたことを挙げたか。 ②講演会後のアンケートで意識の向上が見られたか。	①リーダーシップ育成講演会の満足度は97.1%であり、生徒のマインドを変えることができた。 ①学期の終わりごとの生徒指導主任からの講話や、人権教育担当主催の刑事裁判の実際などを行い、健全な心の育成に取り組んだ。 ②文化祭については生徒の満足度が上がった。特に、これまで規制されていたお化け屋敷や食品販売が活発になり、生徒の主体性を育むことができた。 ②2学年の進路行事で、大学や専門学校の方に説明してもらう行事を行った。生徒は自分の進路をはっきりさせ、勉強に対するモチベーションも上がった。	A  学びの意識化と心の教育の充実については時宜を見て適切に指導できていると言える。一方、新しく教育現場に必要と言われ始めている成人年齢の引き下げに伴う選挙、納税、金融などのリテラシーを身につけさせることも必要となっている。次年度に向けては、教務や学年と相談しながら3年間を通して、計画的に盛り込んでいけるようにしたい。 学校行事についてはコロナ禍前の水準に戻していけていると感じている。次年度についてはDXハイスクールにもつながるところとして、ICTを生徒が活用できること、調べるだけでなくそれを形にすることも念頭に進めていく。
3	本校のように地元からくる生徒も多い学校では、地元で愛され、良好な関係を保つことが重要である。幸いにして、地元地域からは生徒のマナー、行動について一定の信頼と評価を得ているものの、しばしば地元住民から意見をいただくこともある。生徒のモラル、マナーを向上させ、地元地域に還元できるよう取組を行う必要がある。	①生徒自らの行為を客観視させる指導  ②地域連携の強化	①登下校時の交通マナーを向上させるとともに、自らの行動を客観視させ、生徒個人の自律を促す。 ①地域、保護者からの助言、指摘から情報を得て、生徒の実態に即した個に応じた指導を行う。 ②杉戸町役場や近隣の中学校と連携し、「総合的な探究の時間」で地域が抱える諸課題について具体的に理解を深める。 ②小高交流事業を推進し、校内の部活動と近隣小学校との交流を計画的かつ積極的に推進する。	①登下校時の生徒のマナーについての苦情が減ったか。 ①保護者アンケートやいじめアンケートなどから問題を未然に防ぐことができたか。 ②杉戸町役場や近隣中学校との連携や交流はなされたか。 ②小高交流事業は実施され、地域との連携や親睦を充実させることはできたか。	①月に一度ほどの頻度で地域の方からの苦情が入るが、学期が進むごとに減っていき、自律の精神が身につけていっている。 ①保護者アンケートでは昨年度より問題点の指摘は減っており、地域、保護者と良好な関係が築けている。 ②杉戸町役場との連携は良好で、ワークショップの参加等、生徒が自発的に地域に参画しようとした。 ②昨年度同様、陸上競技部、バスケット部、サッカー部、空手道部が地域の小学生と交流した。また、今年度は歯磨き指導も行なった。	A  生徒自らの行為の客観視については、自律した生徒が育っていいことを感じている。今後も、学校、地域、保護者の関係を良好にしつつ、生徒が自ら律していけるよう、学校が組織的に指導できる環境を作りたい。 地域連携の強化については、「総合的な探究の時間」で杉戸町の政策提言を行うなど、生徒たちが主体的に意見を言う場面が見られた。次年度については、これをさらに拡充させ、政策提言で終わらせるだけでなく、政策の一端を杉戸町と協力して具体化できるようなことも含めて進めていけるようにしたい。

学校関係者評価	
実施日(令和6年2月4日)	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>学校外の評価については、倍率という形で評価が下されていると考えられる。現状2月4日現在では、1.5倍近くの倍率が出ており、学校での取り組みが良かったからこそのものであると考えられる。達成度はBとあるが、Aでもいいのではないかと考える。 教員研修の充実については、予算がないという話だが、まずは他の先生の授業を見て学ぶということでもいいのではないかと考える。</p> <p>私立高校が授業料無償化となれば、今後私立高校に生徒が流れて行ってしまおうだろう。学習の充実として、学ぶことの楽しさを感じられる工夫を続けていってほしい。 生徒会活動についても、他校との連携、行事の活性化等、学校全体として楽しく取り組もうとしている様子を感じられる。生徒目線での発信、生徒の考えの尊重を含め、教員と生徒相互にコミュニケーションをとりながら、改善に努めてほしい。</p> <p>学校生活アンケートの保護者意見で整容点検で頭髪のミリ単位のことを指摘するよりも、家庭に任せて自律を促す方がいいのではないかと考える。 学校からの情報発信は保護者、地域、OB・OGとしても大変うれしく感じている。 苦情は学期が進行するごとに減るとのことだったが確かに年度当初と比べると減っていると感じている。4月から引き続き生徒指導には力を入れてほしい。</p>	